

## 新しい都市設計への指針

### 新都市の計画（フック）

ロンドン州議会編／佐々波秀彦・長峯晴夫共訳

#### これまでの新都市建設の成果

この本のフック新都市計画は、1961年にロンドン州議会が発表したもので、ロンドンより64Kmはなれたハンプシャーのフックに新都市を建設しようとするものだ。周知のようにイギリスの新都市計画は、1944年の大ロンドン計画で、ロンドンの産業と人口の過度集中による内部市街地の拡大を阻止し、工業と人口の分散を意図したものである。ロンドン周辺にはこれまでに8カ所の新都市が建設されている。新都市計画はハーワードの田園都市理念を継承して、ロンドンより60Km内外の外周区域の新しい土地に、工業、住宅などを総合的に整備した人口5-8万の衛星都市を建設しようとするものである。フック計画は結局実施されないこととはなったが、これまでの新都市建設の経験と技術が総合された、これまでにないユニークなものをもっている。混乱と緊張の都市生活をおくっているわれわれには、このフック計画は都市計画本来のあり方と足が地についた着実さを感じさせてくれる。

フック新都市は3.2Kmの幅と6.4Kmの長さをもつ長方形の都市だ。まず目につくのは工業地区はこれまでの新都市では中央部にあり、それをとりまいて放射状に住居地が広がっていた。フックでは三つの工業地区はそれぞれ、都市の端に分散配置され、内部市街地の保全と通勤混乱の防止を図っている。そして中心地区には、都市としての高密度の社会的・文化的・業務的センターを構成する。中心の核は長さ1.2Km、幅0.4Kmの線型の重層型をなす。車は都心にまっすぐ乗り入れ駐車場へ入る。建物と歩行者デッキは、道路と駐車場を覆う蓋のかたちで重層式となり、完全な歩車分離となる。ショッピングセンター、事務所公共施設などあらゆるものがこの線型の中心地区を構成する。そしてこの中心地区から800mの徒歩圏内に、人口62%が生活できるよう設計されている。人口密度は中心地区が250人/ha、それに隣接する内部住居地区は175人/ha、外部住居地区では100人/haとなり、建物もそれぞれ多様性を示している。フック計画では都市的性格をかなり強くうちだしているのは特徴的である。

このほか全市街地をかざる緑地と広いオープンスペース、造成湖、完全な歩車分離の道路、上下水道の完備など公共施設は十分に用意されている。住居地区内では人口7-8千人毎に、中央歩行者路に沿い診療所、小学校、幼稚園、遊園地、集会所がもうけられているなど、綿密な都市計画がたてられている。

## 将来への明確な展望

このフック計画は、将来への明確な展望に裏づけられている。新たな衛星都市建設では流入人口のほとんどが20代、30代が中心となる。そのため住宅建設—人口流入と小学校の需要増大—中学校の水ぶくれ—若年者の進学就職による流出—老人のみの世帯という過程をとりがちである。その人口アンバランスをさけるため、流入期間を15年として世代をずらし、15年目に7万人が移住、その後は流入を許さず自然増で50年目に人口10万を予定している。有業人口についても、ほとんどが市内で職をえられるよう、工業、サービス業、商業、その他事務業の誘置を設計している。住居についても、若い新しい世帯への住居を用意している。そのため科学的に将来への推計予測を行い、都市建設を順次、段階的に計画していることなど、都市計画・設計家ばかりでなく、都市計画に関心をもつ人々にとつて、良い指針となりうる。道路設計をみると、国道・広域幹線は市内主要道路と分離して、通過交通が市内を通り抜けるのをさけ、道路混雑を少なくしている。市内道路は右折しないで通行しうよう設計し、歩行者路システムは、中心地区では立体交差による完全な歩車分離を、一般住区内では平面的な分離が設計されている。

このフック計画で特徴的なことは、中心地区に高密度（平方キロ当りでいえば2万5千人）のコミュニティセンターをおいて、文化的、業務的中心をおいたことで、このため中心地区住居は必然的に高密建築となる。イギリスで10数年来公式に採用されてきた近隣住区理論とは異なった行き方を示していることは、注目に値する。自足的な都市を意図したとき、ベッドタウン化をさけると、必然的な方向であろうか。

さらにフック計画は、われわれにとって、これまでの市民不在の都市計画への反省となるだろう。わが国では、いまや都市計画、都市開発の論議は花ざかりだ。各都市でも市街地開発計画をふくめた都市計画が設計されている。しかし、そのほとんどが産業基盤強化を意図したもので、産業道路のための区画整理が行なわれたりして、市民の生活環境に密着したものはなっていない。住宅団地開発はされても、道路は舗装されず、ガス、下水小中学校、保育所など公共施設の欠如、人口のアンバランスが目立つ。このようなときにイギリスの新都市建設のこれまでの成果をまとめあげたかたちの本書は、計画のプロセスと設計の方法を綿密に検討することにより、これまでの都市計画の空間をうめることになる。

（調査室 小玉）

## あ と が き

今回は、新市政のもとではじめて組まれた予算の具体化の年にちなみ、冒頭で現在の地方財政をとりあげ、さらに市政の2本の柱の一つである「子供を大切にする市政」を特集しました。「子供を大切にする市政」といっても、それは乳幼児対策、母子福祉、児童の健康管理、学校教育、施設の整備さらに青少年問題等のすべてを包含しますが、今回は、そのうちの青少年問題についてとりあげてみました。また、さきに発刊した市民生活白書について、内外からの批判をよせてもらいました。

ご多忙のところ執筆して下さった皆さんにはまことに有難うございました。

# 調査季報③

1964年 6月10日発行

編集・発行 横浜市総務局調査室

横浜市中区港町1-1

印刷 有限会社 宮村印刷所

横浜市南区永楽町2-22